

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2024年7月30日

事業ID: 2023S02582

事業名: 長野県諏訪市の「子ども第三の居場所」
(B)学習・生活支援モデルにおける子どもへの体験
機会の提供(2023)

団体名: 一般社団法人フォースマイル

代表者名: 代表者 木村かほり 印

TEL: 090-1865-7933

事業完了日: 2024年6月30日

■契約時

事業費総額	:	1,280,000 円
自己負担額	:	0 円
支援金額	:	1,280,000 円

■箇所は(様式3)収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	1,297,218 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	17,218 円	収支計算書の緑のセルの値
支援金額	:	1,280,000 円	収支計算書の赤のセルの値
支援金返還見込額	:	円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

支援契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、支援契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)支援契約書記載の事業内容(予定)

1. 東北の豊かな自然環境や暮らしについての学ぶ体験プログラムへの参加
(1)時期: 2023年10月
(2)場所: 宮城県石巻市
(3)対象: 子ども13名、スタッフ4名
(4)内容: 他拠点と交流しながら自然との共生や食の大切さ、地域課題等について学ぶ体験プログラムに参加する。また、プログラム後の帰路では飛行機に乗り困窮家庭で県外へ出たことがない、飛行機に乗ったことがない子どもたちが上空から自分の住む地域を見る体験をする。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 東北の豊かな自然環境や暮らしについての学ぶ体験プログラムへの参加
(1)時期: 2023年10月7日～10日
(2)場所: 宮城県石巻市
(3)対象: 子ども11名(1名キャンセル)、スタッフ4名
(4)内容: 他拠点と交流しながら自然との共生や食の大切さ、地域課題等について学ぶ体験プログラムに参加した。また、プログラム後の帰路では飛行機に乗り困窮家庭で県外へ出たことがない、飛行機に乗ったことがない子どもたちが上空から自分の住む地域を見る体験ができた。



(3)成功したこととその要因

行き帰りの道中では、初めての新幹線、飛行機。宿泊企画では自然の中で普段のスタッフと離れての体験をし、体験の少ない子どもたちが多くのことを感じる事ができた。集団での行動や公共交通のマナーも守り、有意義な活動となった。行き帰りの道中は付き添いのスタッフとの信頼関係があったことが成功の理由である。

(4)失敗したこととその要因

失敗ではないが、子どもの参加人数の予定は13名であったが、予約時は12名で、直前に1名がキャンセルとなってしまった。体調や子どもの気持ちを大切に、不参加やキャンセルがあっても丁寧に話を聞き、対応した。

(5)事業内容詳細

上諏訪駅から特急あずさ、東京駅で乗り換えてはやぶさで仙台駅へ、バスに乗って石巻市のモリウミアスへ。モリウミアスでは現地のスタッフと調理体験や薪割り、塩づくり、ニワトリやブタの世話、竹の箸づくり、海でシーグラス探しなど、子どもたちと話し合っ「やりたい」気持ち呼び起こす体験の活動を行いました。たった3日でしたが、子どもたちの少したくましくなった姿に、引率のスタッフも驚きました。ワクワクして出発したところから、特急に乗って、新幹線に乗ると、居場所の仲間との電車の旅自体も多くの体験ができました。途中海を見ながら、震災の時の話を聞き、到着後はスタッフと別れてモリウミアススタッフと、別の拠点の子どもたちも一緒に様々な体験の活動を行いました。普段と違う環境の中で、戸惑う子も活き活きする子もそれぞれの経験を積み、多くの「できた」を感じられた3日間でした。宿泊体験の日までに、毎月オンラインで新鮮な海産物の調理体験を行い、壁に地図を貼りどんなところに行くのかを子どもたちを話し合ってきました。帰りは仙台空港から飛行機で中部国際空港へ。初めての空港、飛行機で、空から自分たちの住む諏訪地域の地形を見ることができました。多くの体験を得ることができた取組となりました。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 東北の豊かな自然環境や災害を学び、県外へ出たことの無い子どもたちの豊かな体験を創出する
(1)時期:2023年10月
(2)場所:宮城県石巻市、仙台市等
(3)対象:子ども13名、スタッフ4名
(4)内容:
a. 仙台市立荒浜小学校の見学で被災地の状況や災害、防災について学ぶ。
b. 仙台うみの社水族館を見学し、海なし県の子どもたちが海の生き物について学ぶ。
c. お土産代を持たせることができない困窮家庭の子どもの特産品の買い物体験、地域の特産物を味わう体験を行う。

(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 東北の豊かな自然環境や災害を学び、県外へ出たことの無い子どもたちの豊かな体験を創出する
(1)時期:2023年10月7日～10日
(2)場所:宮城県石巻市、仙台市等
(3)対象:子ども11名、スタッフ4名
(4)内容:
a. 仙台市立荒浜小学校の見学で被災地の状況や災害、防災について学んだ。
b. 仙台うみの社水族館を見学し、海なし県の子どもたちが海の生き物について学んだ。
c. お土産代を持たせることができない困窮家庭の子どもの特産品の買い物体験、地域の特産物を味わう体験を行った。



(3)成功したこととその要因

被災地の小学校、水族館の見学では、子どもたちの様子や、キラキラした目を見ると、それぞれの感性で多くのことを感じていたことと思う。買い物体験では、ひとりひとりが自分で考え行動する姿が見ることができた。家庭の困窮であったり、不登校など問題を抱えるために体験が少ない状態の子どもが、自分のおかれた環境を気にすることなく事業に参加できたことが成功の理由と考える。

(4)失敗したこととその要因

特になし

(5)事業内容詳細

石巻市のモリウミアスの体験が終わり、3日目の午後から仙台市での体験活動を行いました。仙台市立荒浜小学校で震災の話を聞き、学校の見学を行いました。津波の被害の大きさや避難時の様子、震災前の町の様子などを知り、多くのことを学ぶ時間となりました。次に仙台うみの社水族館の見学を行い、海洋生物の生態や海の中の様子を学びました。海のない県に住む子どもたちにとって、初めて見るものも多くありました。見学の後は売店で買い物体験をしました。自分のお小遣いの予算の中で、家で待つ家族へのお土産を悩みながら選びました。それぞれの家庭の事情を気にすることなく、皆同じ予算で買い物体験をしました。市内のホテルにつくと、それぞれ食べたいもののグループに分かれ、ここでも各自が予算内で食事をとる体験を行いました。子どもたちが工夫して予算内で何が食べられるのか考える楽しみを体験することができました。モリウミアスでの宿泊と違うホテルでの宿泊の体験は、他のお客さんのことも考えながらの体験となりました。スマホやタブレットを使い、それぞれが写真を撮ったものを皆で共有し、後日振り返りながら見ることを行いました。家庭の環境や不登校などの問題を抱える子どもたちにとって、多くのことを感じる体験の活動となりました。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)支援契約書記載の目標

1.東北の豊かな自然環境や暮らしについての学ぶ体験プログラムへの参加
2.東北の豊かな自然環境や災害を学び、県外へ出たことの無い子どもたちの豊かな体験を創出する

文字数チェック
することをご確認ください

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	693	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

「1.東北の豊かな自然環境や暮らしについての学ぶ体験プログラムへの参加」
石巻市のモリウミアスでの2泊3日の宿泊体験を行ったことで、親元を離れ、普段関わっているスタッフではない現地のスタッフと、自然の中で多くのことを体験することができました。ゲームやスマホなどを使わず、初めて会った他の拠点の子どもたちと同室での宿泊体験は、時にはぶつかり合うこともあり、子どもたちにとって自分で考え協力し合うことも学ぶ機会となりました。自然の中で環境のことを実体験から学び、普段経験することのできないことを体験することができ、かけがえのない時間となりました。行き帰りの道中も公共交通を利用しての長い移動時間の過ごし方やマナーを考えたり、集団での行動や特性を持つ仲間への気遣いなど、多くのことを学びました。普段の生活の中でわがままを言ったり自分勝手な行動をとってしまいがちな子どもが、この経験の後変化が見られ、成長を感じることができました。

「2.東北の豊かな自然環境や災害を学び、県外へ出たことの無い子どもたちの豊かな体験を創出する」
ひとり親、困窮した家庭環境や不登校、発達障がいなどの問題を抱える子どもたちが、初めて訪れた県外のまちを見ることも経験となりました。震災の様子を真剣に見たり聞いたりし、海の中の本物の生き物を見る子どもたちの目がキラキラしていました。各自の財布にお小遣いを入れ、自分で予算を計算しながら買い物をすることも、普段できない体験となりました。全体を通して、自分や人との関係を考えることや協力し合うこと、困ったことを話し合うことなどができるようになり、大きな成長を感じます。

3.事業実施によって得られた成果

年度当初からの月に一回の海産物の調理体験や、石巻市や仙台市への交通機関などを地図にして壁に貼り、事前に学んだことと、実際の体験が終了した後の子どもたちの成長の様子がありました。体験活動後、保護者と一緒に写真を見ながら対話の会を開きました。後日近場の学習センターで宿泊体験を行いました。今回の事業での経験があったため、自分のことを自分ですること、皆で協力して行動すること、困ったことを相談することなどが見につけ始めていると感じます。様々な問題を抱える子どもたちが次のステップへ進むきっかけとなったことを実感します。

《保護者からの感想》
イキイキとした子どもたちの様子がわかり嬉しくて嬉しくて。ありがとうございました。
なかなか体験出来ないことを色々体験出来ました。何か少しでも肥やしになっていたら良いと思います。
機会をいただいたこと、3泊4日引率して下さったこと、本当にありがとうございました。
貴重な体験をありがとうございました。
素晴らしい体験をありがとうございました。大きな一歩になったと思います。
とても楽しかったそうで、震災の話も、これまでにボランティアの時の話などしてたので、実際に本人が目で見られてよかったです。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

当居場所を利用する子どもたちは集団が苦手であったり、人との関係を上手に作るのが苦手であるため、引率のスタッフがしっかりと見守る体制が必要であった。また、経済的に困窮している家庭が多く、家庭の負担が大きいと子どもにも多くの体験をさせることができない。家庭の考え方で体験の格差ができてしまうことを感じる。
今後も体験活動の助成金などを検討し、格差を軽減するための活動を行いたい。また、寄付金でのチケット制を導入しているので、他の家庭と比べることなく困窮する家庭の子どもにも体験の活動に参加することができるようにしていきたいが、寄付金を集めることは団体にとって負担を感じる。今後もできる範囲で寄付金も集めていきたい。

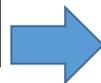
5.事業成果物

(1)支援契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書



(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)